

受傷から2年5ヶ月後、文字による質問に対しYES-NO反応が可能となった症例

The case in which YES-NO reaction to writtery questions appeared 2 years and 5months after traumatic brain injury

辻井 知香子<sup>1)</sup>、豊島 義哉<sup>1)</sup>、平林 美樹<sup>1)</sup>、奥村 由香<sup>1)</sup>、中村 美津<sup>2)</sup>、兼松 小夜香<sup>2)</sup>、奥村 歩<sup>3)</sup>、八十川 雄図<sup>3)</sup>、加藤 貴之<sup>3)</sup>、篠田 淳<sup>3)</sup>

木沢記念病院 中部療護センター リハビリテーション科 言語聴覚療法<sup>1)</sup>、看護部<sup>2)</sup>、脳神経外科<sup>3)</sup>

Chikako Tsujii<sup>1)</sup>, Yoshiya Toyoshima<sup>1)</sup>, Miki Hirabayashi<sup>1)</sup>, Yuka Okumura<sup>1)</sup>, Mitsu Nakamura<sup>2)</sup>, Sayaka Kanematsu<sup>2)</sup>, Ayumu Okumura<sup>3)</sup>, Yuto Yasokawa<sup>3)</sup>, Takayuki Katou<sup>3)</sup>, Jun Shinoda<sup>3)</sup>

<sup>1)</sup>Kizawa Memorial Hospital Chubu Ryougo Center Rehabilitation Speech therapy

【はじめに】重症頭部外傷により四肢麻痺、遷延性意識障害を呈し受傷から13ヶ月経過した時点で追視、自動運動が認められなかった患者が29ヶ月後浮動的ながらも文字による簡単な質問に対し○×によるYES-NO反応が可能となった症例を経験したので報告する。【症例】男性27歳、交通事故にて受傷。M病院搬入時JCS300。8日後気管切開、右大腿骨骨折手術。2ヶ月後DCS、挿入5ヶ月後胃瘻造設、6ヵ月後K病院転院、10ヵ月後I病院経て13ヵ月後当センター入院【画像所見】入院時CT上、萎縮・脳室拡大が著明でPETでは前頭葉・視床・脳幹の糖代謝の低下が認められる。入院より17ヶ月後のPETでは前頭前野を中心に改善が認められる。入院時評価東北療護センタースケール(以下広南スケール)66点、追視(-)口腔・身体の自動運動なし。ABR反応なし。2ヵ月後追視出現。12ヶ月後指差しに反応。14ヵ月後食物認知、口腔・右上肢の模倣、2語文の書字命令に反応。16ヶ月後広南スケール51点、標準失語症検査「読む」の項目を1/2選択で教示：漢字単語7/10仮名单語8/10短文の理解0/102語文レベルの質問に○×で返答。あいさつに頷く。右手の随意性が向上。【考察】本症例は、①追視の出現②指差しに反応③食物認知④開閉口、手指による模倣⑤文字の理解⑥YES-NO反応の順に回復してきたが本人からの発信は認めず、原因として中途失聴、意識レベルが浮動的、認知機能の低下が考えられる。しかし、返答方法・内容の種類は増加している。今後、文字と首振り、頷きによるYES-NO反応の定着へと進めていきたい。